

Success Story from KODAK

データ管理サーバとジョブ検索エンジンを 兼ねた Prinergy & InSite ワークフローで、 顧客サービスの向上と他社との差別化を実現。

顧客ニーズの一步先を見据えた 印刷ビジネスを展開

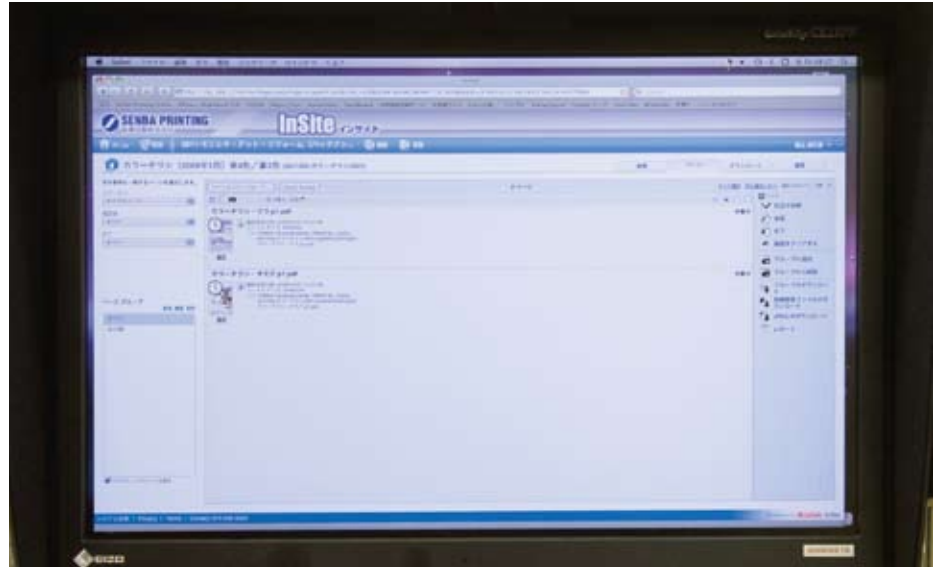
兵庫県姫路市に本社を構える船場印刷株式会社は、「ニーズの一步先」を目指しながら、質の高い印刷ビジネスを確立してきた先進企業である。従業員数は43名。創業は昭和27年と半世紀もの歴史を持ちながら、最新技術の導入にはつねに積極的に取り組んできた。またその先見性には目を見張るものがある。2000年8月に導入したワークフローシステム Kodak Prinergy（当時はハイデルベルグとクレオの共同開発製品）はバージョンアップを重ねながら、同社のプリプレスワークフローの中核を担ってきた。それは当時、Prinergy が掲げた R.O.O.M. (Rip Once Output Many) コンセプトが、将来性を持った確かな技術であったことの見事な証明になっている。さらに2004年には菊全判サーマルCTPレコーダー Kodak Lotem 800 Quantum を導入しCTP化を実現。2008年には Kodak InSite



専務取締役 藤塚 謙次郎氏



プリプレス部 制作課主任 鍋山 城作氏



の導入によって印刷ビジネスの新しい可能性を広げようとしている。まさに顧客ニーズの一步先を実現するため、同社ではつねに一步先の技術を導入し続けてきたのである。

将来生き残る技術と確信して プリプレスをコダックに統一

同社の専務取締役である藤塚謙次郎氏は Prinergy 導入の理由について次のように語っている。

「当時、社長がブルーファーやセッターなど各 RIP を一元化し、一貫したワークフローを構築して業務改善を図りたいと考えていました。Prinergy に決めたのは R.O.O.M. コンセプトはもちろんですが、社長が『将来、必ず生き残る技術だ』と確信したことが最も大きな理由でした」

こうした同社の考え方は CTP 導入時でも一貫している。各社が標準化を競っていた数多くの CTP のなかから、今では業界標準となったサー

マル CTP を選択。Lotem 800 Quantum の導入と同時に、印刷機も菊全判と菊4裁判の2種類に統一し、一気にCTP化を進めていったのである。

「お客様の要望もあって、品質向上と短納期化を目指してCTPを導入しましたが、その成果は予想以上でした。無人出力で版待ちがなく、品質も著しく向上しました」

CTPという新技術をスムーズに導入できた背景に、Prinergy ワークフローのすぐれた安定性があったことは間違いない。

導入当初60%だった同社のCTP化率は現在ではほぼ100%に。プレートはすべてコダック製で、面付けソフトには Kodak Preps を、カラーブルーファーには Kodak Matchprint Inkjet を採用。同社のプリプレスワークフローはコダック製品に統一され、Prinergy を中核とした生産工程の全体最適化を図る Unified Workflow を実現している。

プリプレス/制作部門





Kodak Lotem800 Quantum 菊全判対応サーマルCTP



印刷部門 (写真は菊全判4色両面兼用機)

制作データのデータベース化を目指して InSite を導入

フィルムから CTP へと順調な移行を果たしてきた同社だが、新たな課題も浮き彫りになってきた。在版フィルムは少なくなったものの、MO や CD、DVD といったメディアが保管キャビネットを占拠し、再版、改版時の作業に手間取るようになってきたのである。姫路は近代以降工業地帯として栄えた地域。製造業が多く、同社でもマニュアルや広報誌などページ物の再版、改版の仕事が多いとのこと。プリプレス部 制作課主任の鍋山城作氏は、問題点を次のように指摘する。

「在版台帳を確認しながら膨大なメディアのなかから必要なデータを探し出し、その都度ワークステーションのハードディスクにコピーして使用していました。データの取り扱いや管理に手間がかかるだけでなく、安全面での不安もありました」

コスト面を問題視したのは社長だった。再版、改版の仕事は低価格が当たり前。コストを最小限に抑えなくてはならないのに、実際には見込みより大幅にコストを浪費していた。このため、藤塚専務は制作データのサーバ管理による作業コストの削減を模索した。しかし、NAS や DTP サーバではデータ管理と検索が便利になるだけ。作業プロセス全体を自動化・効率化するためには Prinerger との連携が欠かせないとの理由から InSite の導入を決断した。その構想は Prinerger を生産ラインと直結したジョブサーバと位置付けて、最終の印刷用 PDF と制作データ一式を圧縮・保管し、これらのジョブ検索エンジンとして InSite を利用するというもの。

「これなら社内だけでなく、お客様も InSite で過去のジョブデータを検索・参照して流用できます。再版の仕事は出力指示だけで済みますし、改

版の場合でも校正・確認作業は Web を介して InSite で簡単に行え、校了後は CTP 出力までの業務フローを完全に自動化できます」

Web 校正からデータ入稿、バックナンバー管理まで InSite が活躍

InSite が持つ Web ポータルとしての高度な機能は、顧客である制作会社や印刷会社にも受け入れられた。定期物の月刊誌 (80 ページ) では、データ入稿から Web 校正まですべての作業が InSite 経由で行われている。

「以前はおお客様が持参したデータを当社で面付け・出力し、その場で校正・修正作業を行っていました。今はおお客様が InSite でデータを順次アップロードすると、Prinerger の RBA (ルールベースオートメーション) 機能を駆使し印刷用の PDF を作成し面付け台紙に自動的に割り付けます。校正は InSite で行い、直しがある場合はお客様がデータを再アップロードしています」

お客様は InSite 上で CTP 出力用の RIP 結果を見ているという安心感・信頼感があると、鍋山主任は語る。神戸の制作会社とは大学案内 (約 170 ページ) の仕事で、InSite が大活躍した。「印刷間際の 3 日間は昼夜問わず校正・修正作業が必要で、24 時間態勢で準備していたが、それでも InSite がなかったら間に合わなかった」と藤塚専務は胸をなで下ろしている。また同社が DTP 制作している製造メーカーなどのクライアントも、InSite の使用に対する戸惑いは少なかった。Web 校正はもちろん、Word やロゴなど原稿データの送信などで気軽に使われているようだ。制作部門にも e メールで通知が届くので迅速な対応が可能になる。

さらに定期刊行物のバックナンバー管理という

新しいニーズも生まれてきた。必要なバックナンバーを即座に検索して確認できるため「過去のジョブデータの保管だけでなく、新人教育にも使える」と顧客も高く評価している。InSite という資産を顧客サービスとして提供すること、それは同社にとって顧客満足度の向上と他社との差別化を実現する確かな戦略となっている。



InSite を活用して制作されている定期刊行物など



船場印刷株式会社

代表取締役：藤塚 紳也

従業員数：43 名

本社所在地：〒670-0994 兵庫県姫路市定元町 4-2

TEL: 079-296-3535 FAX: 079-297-3155

<http://www.senba-p.co.jp/>

コダック株式会社 グラフィック コミュニケーション事業部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9 TEL: 03-5577-1200/1250
 大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180
 仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-7159

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
<http://graphics.kodak.com>

この印刷物は Kodak ExThermo TP-W と Staccato FM スクリーニングにより印刷しています。
 09-10-CAT.36004320

Kodak

It's time for you AND Kodak